

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第40週（9月29日～10月5日）

## 今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

### 定点把握感染症

#### 「インフルエンザ」増加続く

第40週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,714例であり、前週比10.6%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.52、1.90、1.30、1.12、0.94である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比20%増の652例で、南河内5.75、三島4.59、北河内4.55、大阪市南部4.35、豊能3.77であった。

RSウイルス感染症は5%増の352例で、大阪市北部3.31、南河内2.69、北河内2.64である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は43%増の241例で、中河内1.95、南河内1.94、大阪市東部1.67であった。

流行性角結膜炎は17%減の58例で、豊能3.40、中河内2.60、大阪市西部・大阪市南部共に1.50である。

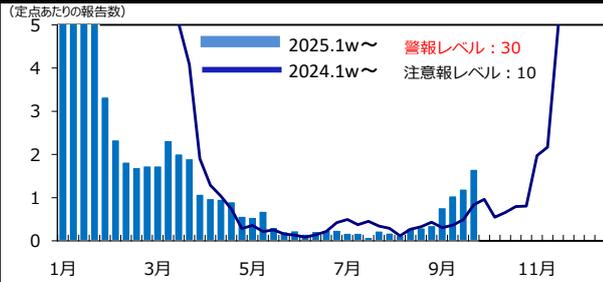
伝染性紅斑は14%減の173例で、南河内2.50、中河内1.63、北河内1.45であった。

インフルエンザは38%増の484例で、定点あたり報告数は1.66と第36週以降5週連続で増加がみられている。大阪市西部3.67、泉州2.76、大阪市南部2.00、南河内1.83、北河内1.51であり、大阪市北部を除く10ブロックで定点あたり報告数1を超えていた。

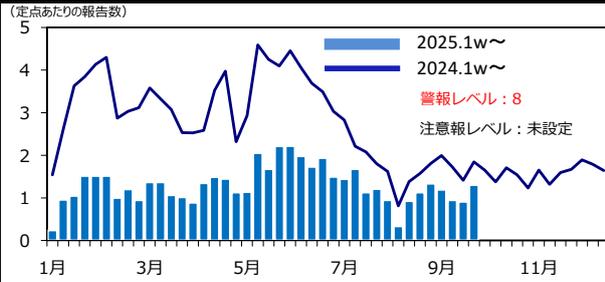
新型コロナウイルス感染症は16%減の951例、定点あたり報告数は3.27と3週連続で減少がみられている。北河内5.00、大阪市東部3.50、堺市3.36、泉州3.21、大阪市南部3.19であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は10%増の11,152例、定点あたり報告数は38.32である。南河内56.13、北河内49.19、堺市43.16、中河内41.86、豊能37.69であった。

#### インフルエンザ



#### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第40週9月29日～10月5日）

第40週 の順位	第39週 の順位	感染症	2025年 第40週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第40週の 定点あたり 報告数	2025年第40週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.52	21%増	2.94	1歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	1.90	5%増	0.47	1歳_36%
3	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.30	43%増	1.84	10-14歳_19%
4	3	流行性角結膜炎	1.12	17%減	0.42	20歳以上_69%
5	4	伝染性紅斑	0.94	14%減	0.05	5歳_21%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	1.66	38%増	0.84	10-14歳_28%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	3.27	16%減	1.93	10-19歳_24%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	38.32	10%増	-	1-4歳_39%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、[大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）](#)をご覧ください。

## 第40週のコメント

～日本紅斑熱～ 大阪府では2024年17例の報告があった。2025年は第40週時点で9例の報告があり、直近5年間で2番目に多い

全数把握感染症	
日本紅斑熱	
<p>日本紅斑熱は、紅斑熱群リケッチアの一種 <i>Rickettsia japonica</i> を起因病原体とし、野山でマダニに刺咬されることにより感染する。媒介マダニの活動が活発化する4月～10月に発生し、特に9月、10月が多い。自然界で保菌あるいは感染する動物として、げっ歯類、野生のシカ、イノシシなどがあげられる。潜伏期は2～8日であり、頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。発熱、発しん、刺し口が主要三徴候であるが、必ずしも、刺し口があるとは限らない。発しんは、体幹部より四肢末端部に強く出現し、検査所見では、肝逸脱酵素の上昇、血小板の減少が認められる。治療には、抗菌薬投与が効果的であり、第一選択薬はテトラサイクリン系の抗菌薬である。β-ラクタム系の抗菌薬は全く無効である。</p> <p><a href="#">日本紅斑熱（大阪健康安全基盤研究所）</a>  <a href="#">日本紅斑熱（国立健康危機管理研究機構）</a></p>	<p>年別累積報告数（大阪府）</p>

表2. 大阪府全数報告数（2025年 第40週9月29日～10月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内							報告数	府内累積
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8	1	1	2	1	1			2	178
4類感染症	デング熱	1								1	15
	日本紅斑熱	1								1	9
	レジオネラ症（肺炎型）	1					1				108
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3							1	2	80
	後天性免疫不全症候群	2								2	73
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		1						1	34
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	261
	水痘（入院例）	1			1						45
	梅毒	13	1		1	1				1	1,327
	百日咳	35	3	3	10	2	6			4	7
結核 (2025年8月分)	結核 新登録患者数：73名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 21名) (府内累積報告数 766名、内 肺・喀痰塗抹陽性 255名)										

(2025年10月7日 集計分)